

修論題目：「住民参加の地方史研究における地域博物館の位置付け
－住民参加の自治体史編纂活動を中心に－」

要旨

本研究の目的は、地方史研究活動における住民参加の自治体史編纂の現状と課題、及び地域博物館に対する要求を明らかにし、それについて地域博物館が果たすべき役割と問題を検討することであった。

序章では、研究の背景、研究の目的と意義、研究方法、用語の定義、論文の構成について記述した。

第一章では、『地方史研究』歴年の内容を調査することにより、戦後の地方史研究及び自治体史編纂は地域住民の重要性を重視し、地域住民の参加を図ることを明らかにした。また自治体史編纂の主流形式はまだ専門研究者が中心であり、地域住民の自治体史執筆への参加に対する重視はまだ不十分であり、理想的な住民主体の自治体史編纂はまだ達成されていないことも確認した。同時に住民参加の自治体史編纂自体も執筆人材の育成、資料の保存・活用などの問題に直面していることが明らかにした。

第二章では、先行研究を通じて地域博物館と地方史研究、自治体史編纂の関係をまとめた。地域博物館の機能から、地域住民の参加や地域歴史の研究を重視し、地域住民の歴史学習や研究活動を支援することが求められていることを確認した。同時に地方史研究者は、地域博物館が地方史研究の拠点としての役割を果たし、地域住民の地域理解・学習や地方史の研究を支援してほしいと考えていることを確認した。また、地域博物館は実際の自治体史編纂活動に重要な役割を果たしており、自治体史編纂が地域博物館建設のきっかけになることもあり、両者は互いに促進し合っていることを明らかにした。

第三章では、地域住民参加の新「尼崎市史」と地域住民が主体となった『香寺町史』の調査結果を分析した。調査を通じて住民参加の自治体史編纂の特徴は、長期的な人材育成と資料蓄積を前提とし、かつ活動は本の出版を目標とせず、長期にわたって継続的に行われていることを明らかにした。また、住民参加の自治体史編纂は、資料保存・活用の問題、公文書収集管理の問題、地域住民の歴史執筆への意識が強くない問題、編纂事業の他団体との連携不足と外部からの支援不足などの問題に直面していることを確認した。

第四章では、平塚市博物館と横浜市歴史博物館における地方史研究活動の取り組みを調査し、結果を分析した。2つの事例の調査を通じて、地域博物館が地域歴史研究の最前線と研究拠点として、地域内の資料の保存・活用を支援し、地域住民の地方史研究能力を育成し、新たな郷土史家を育成すべきであることを確認した。同時に、地域博物館が地方史研究活動を行う際に参加者の年齢層が高く、メンバーが固定化され、参加者が興味から研究を行うことへの転化が難しい、および住民が地域資料の重要性と保護への重視度・参加度が不足などの問題があることを明らかにした。

第五章では、これまでの内容をふまえて、住民参加の自治体史編纂の形式、地域博物館が果たすべき役割と存在する問題について分析と考察を行った。住民参加の自治体史編纂は、編纂目的、編纂方法、資料源及び内容重点などの面で伝統的な自治体史編纂と2区別されていることが明らかになった。また住民参加の自治体史編纂を実現するために、地域博物館が果たすべき役割と存在する問題点について検討し、資料保存、成果活用、そして最も重要な人材育成と事業の長期継続などの面で、地域博物館は重要な役割を果たすことができる結論を得た。同時に地域博物館自身も地方史研究の支援が不足しており、活動メンバーが固定化され、年齢層が高く、若者に対する吸引力が不足しており、各館間の経験交流と連携不足の問題があり、また行政側からの重視や援助も不足していることを確認した。

終章では、これまでの議論のまとめ、および今後の課題をまとめた。